2017年12月25日　週刊アミューズメントジャパン　第619・620合併号

2017年（平成29年）12月25日　月曜日　第619・620合併号（毎週1回発行）

APJ Amusement Press Japan

本新聞はヤマト運輸(株)に委託して、ポスト投函方式でお届けしています。（郵便物ではありません）

パチンコ・パチスロ業界最新情報

週刊アミューズメントジャパン

Weekly Amusement Japan

2017年（平成29年）12月25日 月曜日

編集・発行所　株式会社アミューズメント プレス ジャパン　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアシスト 5F　TEL.03-5447-0555　http://www.amusement-japan.co.jp

本紙調査

リカバリーサポート・ネットワークの啓発ポスター

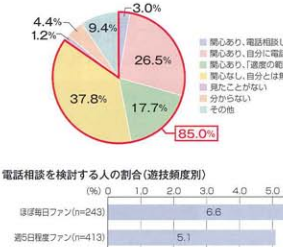
ファンの認知度85%

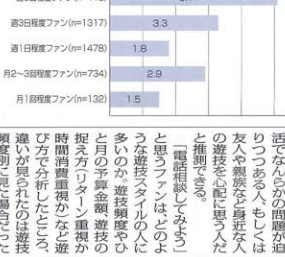
高頻度層ほど電話相談を検討

ホールが取り組むギャンブル等依存症対策の取り組みは、遊技客にどれだけ伝わっているだろうか。本紙が8月下旬にパチンコ・パチスロポータルサイト「P-WORLD」と共同で行ったファンアンケートでは、85.0%ファンがRSNポスターを認識し、半数弱のファンが依存問題に関心を寄せていることが分かった。

わが国で唯一のぱちんこ依存問題の専門相談機関である「リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）には、2016年の1年間で2502件の電話相談があった。全商協支援室含む）このうち沖縄RSNへの電話相談は2243件。複数回目の相談や間違い等を除いた初回相談は881件だった。この1816件の相談者がRSNを知った経路は、ホール内ポスターが43%と最も多い。ではホール来店者のうち、どの程度の人がこのポスターを認知しているだろうか。本紙の調査ではRSNの名称には触れずに、「パチンコは、適度に楽しむ遊びです」というポスターを店内で見たときに、どのような心情になったかを択一選択式で尋ねた。

全回答者4433人のうち、このポスターを「見たことがない」ファンはわずか1・2%だった。全回答者のポスター認識率は「分からない（4・4%）」その他（9・4%）を除いて85・0%と上回る図。ではポスターを見たファンは何を思うのか。提示した四つの選択肢の中で最も割合が多かったのは、「関心がなく、自分とは無関係」の37・8%だった。続いて「関心はあるが、自分で電話相談は必要ない」26・5%、「関心は、遊技客だけでなく、ホールの従業員や関係者にも、ぜひ見てもらいたいポスターだ。ホールの従業員や関係者にも、ぜひ見てもらいたいポスターだ。





図。ほぼ毎日の頻度で遊技するファンのうち、「関心あり、電話相談してみよう」と思っているファンは3・0%だった。

「関心がなく、自分とは無関係」や「関心はあるが、自分に電話相談は必要ない」と答えたファンは、パチンコ・パチスロを適度に楽しめていると思っているからだ。一方、「関心があり、電話相談してみよう」と答えたファンは、自分の遊技が適度の範囲を超えているかもしれない不安を感じているか、日常生活でなんらかの問題が迫りつつある人も、しくは友人や親族など身近な人の遊技を心配に思う人だと推測できる。

「電話相談してみよう」と思うファンは、どのような遊技スタイルの人に多いのか、遊技頻度やひと月の平均金額、遊技の時間消費傾向など遊技方（リターン重視か捉え方（リターン重視か）、ひと月の平均金額、遊技の時間消費傾向など遊技方式が見分けしたところ、違いが見られたのは遊技頻度別と見た場合だった図。ほぼ毎日の頻度で遊技はするファンのうち、「関心はあるが、適度の範囲が分からない（17・7%）」の割合は6・6%、週5日程度で遊技するファンは5%。電話相談を検討する人の割合は、遊技頻度が高いファンほど多くなる傾向が見られた。

ただしこの結果をもって「高頻度層ほど問題を抱えている人が多い」と言い切れない。高頻度層ファンは低頻度層ファンと比べて相対的にポスターとの接触頻度が高い。今回の結果は、接触頻度の高さと相関関係があると見るほうが自然な解釈だろう。

急増する電話相談 ホールは何をすべきか

昨年末のJR推進法成立を一因として、RSNへの電話相談件数は今年に入って大幅増加している。今年10月の相談件数は377件で、前年同月の2・2倍だ。17年3月以降8カ月連続で、前年実績の2倍前後の相談があった。

RSNは依存問題対策の拡充に伴い、11月1日から電話相談の受付時間を拡大した。それまで午前10時から午後4時までだったものを、午後10時までに6時間延長した。今後、RSNにかかる負荷が増えることが予想される。

ではファンに最も近いスタンスのファンの存在ができるのか。今回のアンケート分析からは、自身の遊技に不安を抱いているファンの存在が浮かび上がった。RSNによれば、重大な問題が起きていなくても、強い不安感から電話相談をする人が多いという。

遊技客が自分の遊技を不安に感じる主な原因が、依存問題に関する知識不足であるならば、正しい知識を身に付けた遊技客が増えることが、ホールにとっても、パチンコ・パチスロアドバイザーが担う役割は大きい。不安を感じない範囲の遊技を提供しつつ、電話相談前の緩衝材となること。全国舗でのアドバイザー配置が急がれる。

評価された。1点は「働き